

今回は、地域医療機関からの指摘に学びます

2016.2.25

京大病院医療安全情報78

【地域連携の強化と医療安全】

数年前に発生した事例：

患者は**土曜日夜**に、京大病院の救急を受診し、緊急にて内視鏡処置を実施した。入院、**絶食**となり、**血糖降下薬は中止**された（かかりつけ医の薬剤は一包化であったため、院内で再度処方し、その際、血糖降下薬は不要なので処方しなかった）。

数日間の絶食後、食事再開となった際に、**血糖降下薬の再開がなされない**ままとなり、患者は退院した。退院時には1か月分の**退院時処方**が**<一包化>**され、患者に渡された（血糖降下薬は含まれていなかった）。

1か月後、患者はかかりつけ医を受診し、血糖値が600mg/dlに上昇と分かり、京大病院に紹介され、緊急入院となった。

<問題点>

休日緊急入院のため薬剤師の持参薬確認なし

絶食となり、血糖降下薬は中断となった

食事再開時に血糖降下薬が再開されなかった

退院時に血糖降下薬を含まない退院時処方をした（一包化）

<京大病院で決めた改善策>

- ・休薬している薬剤を指示簿に記載し<休薬中>としておく。
- ・緊急入院となった患者に対し、平日に薬剤師が持参薬確認する。

かかりつけ医との連携を活かした
改善策もあります

続きは裏面に・・・

今年度の医療安全活動目標は・・・

確認行動
左右・部位確認

コミュニケーション
患者への検査結果
の説明

京大病院医療安全情報78

患者さんに検査結果を説明する ＋ 退院後のフォローを かかりつけ医に依頼する

この事例では、7日間の入院期間中に5回血糖値が測定されていました（血糖値：170～250 mg/dL）。医師は、患者に、入院中の血液検査結果を説明していませんでした（血糖値が高いことを医師は認識していませんでした）。

地域の医療機関からもご意見をいただいています。

- ✓ 紹介元のかかりつけ医に逆紹介してもらったらトータルで診ます（京大の医師は自分の専門以外の異常値に気付いていないことがあります）。
- ✓ 京大病院で血液検査の結果について説明を受けていないと言って、（かかりつけの）主治医に検査結果の説明を求める患者さんがいます。
- ✓ 京大の医師はPCばかり見て、話しかけにくいという声を聞きます。
- ✓ 長期の退院時処方を出されると、患者さんはかかりつけ医を受診しなくなります（その後のコントロールにも響くことがあります）。

かかりつけ医と京大病院の役割を分担



退院後**早期**にかかりつけ医を受診してもらう

血圧、血糖値などコントロールが必要な疾患は
かかりつけ医にお任せするほうが安全です。